



「新法による政党と党员の間で格差問題が発生する懸念」として元国家改革評議会議員らによる政党法を改正する提案を 国家立法議会の議長 受け止め

2017年12月12日、特任教授ポーンペット・ウィットチョンラチャイ国家立法議会の議長（右から2人目）は、新法による政党と党员の間で発生すると見られる格差問題を防ぐため、任期満了となった元国家改革評議会議員のパイブーン・ニティワン氏らによる政治に関する法律を改正する提案を受け止めました。改正の理由について、この新法で規定されている「現行法により作られた政党の党员は党費を収めないで、党员となっていくが、現在以降、作られた新党の党员は条件として党費を収めなければならないことで不公平だ」ということは問題点とされています。

これに対し、ポーンペット議長は、「この点は今まで取り上げたことがなく、十分に勉強しなければならない。本当に問題であれば、改正は、内閣と選挙管理委員会による改正の提案を出すか又は議員たちによる法律の修正法案として提出するかという形で可能だ。ただし、新法を改正するのに改めて国民からの意見聴取をする必要な条件で少なくとも2ヶ月間かかり、確かに2018年総選挙の実施に影響を及ぼすのだ」ということ意見を述べました。

一方、国家平和秩序維持評議会(NCPO)が権限を維持中、政党に向け政治的活動期間の延長をするため衆議院議員選挙法の一部修正を巡っては、「衆議院議員選挙法は未だに立法議会の委員会で審議中なので、活動期間の延長に関する修正は政党法の修正より簡単にできる」と議長は述べました。

記事/編集:レニュー・ケーマパンヤー  
翻訳:タカウィット